



.....



20世紀の映像百科事典

エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ

を見る

連続上映会 4 養蜂

上映プログラム

ECフィルムより

ドイツ北西部、養蜂上の仕事(1978-1979年撮影) 「蜜の採集」/13'00" 「巣別れ時の作業」/12'00"

特別上映

福島県阿武隈山地のニホンミツバチの養蜂に関する調査映像など

〈ゲスト〉

佐治 靖

(民俗学・人類学 福島県立博物館)

中村 純

(養蜂学 五川大学ミツバチ科学研究所)

2013.7.18

18:30開場/19:00開演

会場:Space&Cafeポレポレ坐

予約:03-3227-1405 event@polepoletimes.jp(ポレポレタイムズ社)

料金:予約1,500円/当日2,000円(ドリンク付)

かつて壮大な映像百科をつくろうと夢見た人々がいた。

本上映会シリーズは、20世紀を代表するこの壮大な映像アーカイブを
今に生きる私たちの目線で読み直し、虫干して、

多彩な分野の人々との対話を通して新しい息吹をふき込む試みである。

これらの映像の中に、私達の未来に必要な宝物を見つけられるかもしれない。



エンサイクロペディア (EC) シネマトグラフィカとは?

1951年、ドイツ・国立科学映画研究所で、科学映像を
めぐる一大計画が始まった。「エンサイクロペディア・シネマ
トグラフィカ」(EC)と題するこのプロジェクトは、世界中の知
の記録の集積をめざした映像による百科事典。以後30年近くの
歳月を費やして数多くの研究者・カメラマンが世界各地に赴き、
現在は失われた暮らしの技法や儀礼などの貴重な記録を含む、
2000タイトル強の映像アーカイブが制作された。ECはさらに
各国機関に渡り、日本でも1970年より下中記念財団によっ
て、アジアで唯一のフルセットの映像が管理・運用されてい
る。だが21世紀現在、本家ドイツのECプロジェクトは解
散、日本でも16mmフィルムという記録媒体が障
壁となり上映機会はほぼ途絶えていた。

本上映にあたり

短編映像のモザイクの海からさがす宝物

「食べる」「寝る」「子を産む」…さまざまな行動をテーマに、チ
ンパンジーに爬虫類、微生物から人間までを記録した生物学
シリーズ。民族学分野では「パン作り」だけで世界40地域の
タイトルが並ぶ。

提唱者G.ウォルフは、演出や解説、BGMを徹底的に避け
て比較を可能にする体系的な映像モザイクを目指し、EC
は20世紀の民族誌映画のひとつの型を作ったとも言われ
る。動物行動学の父コンラート・ローレンツ、EC愛好者か
ら制作者に転身した元テレビ修理工マンフレッド・クル
ガーなど、多彩な才能が結集して培われた映像制作の手
法は後に各国に伝授され、そこから山形国際ドキュメンタリ
ー映画祭等でも活躍する映画監督が育ちつつあるという。
ケータイの動画撮影、Youtube映像……あらゆる断片映像
の波に溺れる私たちの日常。こんな時代だからこそ、映像記
録の原点ともいえるこの映像の百科事典が、新たな輝きを放
つに違いない。今まさに、「客観」や「科学」の括りからECアー
カイブを解き放ち、魅惑の標本箱の宝探しにくり出そう。

連続上映会 ④ 養蜂

巣箱を整え蜂を待つ。山からやってきた蜂は、気に入れ
ばそこに巣を作り、ぶんぶん山の木々、草の花の間を
行き来して蜜をあつめる。人はその小さい命の不思議を
観察し寄りそい、そして甘い蜜や巣をいただく。遠い昔か
ら世界中で繰り返されてきた昆虫と人間の営み。糞で編
んだ巣箱を使うヨーロッパの養蜂のEC映像に加え、ゴウ
ラ、ボンケと呼ばれる丸太の巣箱を使って野生のニホン
ミツバチを飼う阿武隈山地の伝統養蜂の映像を上映。養
蜂の民俗を研究する佐治靖さん、蜂蜜やミツバチの行動
を研究する中村純さんを迎えてお話をうかがいます。
3.11の後、放射能汚染により損なわれてしまった、かけ
がえのないものとは何なのか?そのことときちんと向き合
い、語り合う。そして「これから」を考える機会としたい。

ゲスト

佐治 靖 さじ おさむ

福島県立博物館学芸員。専攻は民俗学・
人類学。主な研究にイタコなど東北日本
の口寄せ巫女、オシラ信仰研究、養蜂・養
蚕・飼い鳥など環境・身体・社会をめぐる生
業・在来知研究、とくに近年は、ニホンミ
ツバチの伝統的養蜂の「半」家畜化、日本列
島を南北に移動生活をしながら養蜂を生
業とする転飼養蜂家の研究をおこなって
いる。主な著作に「開発による民俗の変容
と相克」「島の生活世界と開発 日本列
島 シマの自然と伝統のゆくえ」(東京大
学出版会/2004)ほか。

中村 純 なかむらじゅん

玉川大学学術研究所ミツバチ科学研究セ
ンター教授。専攻は養蜂学。ミツバチ生産
物の原料となる植物資源とミツバチによ
る利用をテーマとして、プロポリスの原料
となる樹脂やハチミツの原料となる花蜜
について、分析化学と行動学を合わせた
研究を行う。NPO法人みつばち百花のメ
ンバーとして、今年から、「ミツバチ来てた
よ、大調査」で、全国各地の訪花植物情報
を集積中。主な著作に「社会性昆虫の進
化生物学(海游舎/2011)、「ニセアカシ
アの生態学(文一総合出版/2009)など。

上映プログラム

ECフィルムより ドイツ北西部、養蜂上の仕事(1978-1979年撮影)「蜜の採集」/13'00" 「巣別れ時の作業」/12'00"

特別上映 福島県阿武隈山地のニホンミツバチの養蜂に関する調査映像など

2013.7.18 ④ 18:30開場/19:00開演

会場:Space&Cafeポレポレ坐 東京都中野区東中野4-4-1ポレポレ坐ビル1階

予約:03-3227-1405 event@polepoletimes.jp (ポレポレタイムス社) 料金:予約1,500円/当日2,000円(ワンドリンク付)

■共催:公益財団法人 下中記念財団(平凡社の創立者下中弥三郎を記念し、教育・出版に関する助成を実施)、ポレポレタイムス社

■企画:EC上映班/下中菜穂(暮らしの自由研究室)、丹羽朋子(FENICS)、ポレポレタイムス社 ■協力:川瀬慈(国立民族学博物館)、岡田一男(東京シネマ新社) ■グラフィックデザイン:大橋祐介

次回
予告

2013年10月31日(木) 18:30開場/19:00開演 ※予定変更になる可能性があります。詳しくはお問い合わせください

連続上映会 ⑤ 仮面 ゲスト:吉田ゆか子(国立民族学博物館/バリ仮面研究)ほか

会場:Space&Cafeポレポレ坐

予約:03-3227-1405 event@polepoletimes.jp (ポレポレタイムス社) 料金:予約1,500円/当日2,000円(ワンドリンク付)